

# 山形大学大学院社会文化創造研究科

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	.....	1
(1) 学生の確保の見通し	.....	1
1) 定員充足の見込み	.....	1
2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	.....	2
3) 学生納付金の設定の考え方	.....	9
(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	.....	9
2. 人材需要の動向等社会の要請	.....	1 1
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	.....	1 1
(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもの	.....	1 2
であることの客観的な根拠		

## 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### (1) 学生の確保の見通し

社会文化創造研究科（修士課程）の入学定員については、現行の社会文化システム研究科・地域教育文化研究科（修士課程）の入学定員よりも2名少ない24名を計画している。その内訳の募集人員は、社会文化システムコースが10名、臨床心理学コースが7名、芸術・スポーツ科学コースが7名となっている。

#### 現行

##### 社会文化システム研究科

専攻	入学定員	学位
文化システム専攻	6名	修士(文学)
社会システム専攻	6名	修士(政策科学)

##### 地域教育文化研究科

専攻	入学定員	学位
臨床心理学専攻	6名	修士(臨床心理学)
文化創造専攻	8名	修士(学術)



#### 令和3年4月～

##### 社会文化創造研究科

専攻	入学定員	募集人員	コース	学位
社会文化創造専攻	24名	10名	社会文化システム	修士(文学) 修士(政策科学)
		7名	臨床心理学	修士(臨床心理学)
		7名	芸術・ スポーツ科学	修士(学術)

この24名という入学定員については、定員の充足を十分に見込める状況にあるということ、現行の社会文化システム研究科・地域教育文化研究科（修士課程）における定員充足の状況及び社会文化創造研究科（修士課程）への進学希望に関する調査の結果に基づいて説明する。

### 1) 定員充足の見込み

（資料1「社会文化システム研究科・地域教育文化研究科入学状況一覧（平成27年度から平成31年度）を参照）。

社会文化創造研究科（修士課程）の定員充足の見通しについては、次のような理由から入学定員24名を確保することは十分可能である。

現行の社会文化システム研究科・地域教育文化研究科（修士課程）の両研究科の平成27年度から平成31年度までの実績において、入学定員26名に対して8.5%の定員超過となっており、充足している状況にある。

社会文化システムコースへと移行する現行の社会文化システム研究科の入学者の実績（5年平均）では、内部進学者4.8名（人文社会科学部及び他学部）、外部進学者9.0名（他大学、留学生及び社会人）が入学している。また、社会文化創造研究科（修士課程）への進学希望に関する調査（第2次）で進学する意向を示した者が3～7名であることから、内部進学者3～4名、外部進学者9名で合計は12～13名となる。社会文化システムコースは、年度による入学志願者数の変動、留学生の質保証、2つの研究科の統合により、人文社会科学部で心理学や美術

史等を専攻した学生が他のコースに進学する可能性も考慮して、募集人員を10名とした。

臨床心理学コースへと移行する現行の地域教育文化研究科臨床心理学専攻の入学者の実績(5カ年平均)では、内部進学者2.2名(地域教育文化学部及び他学部)、外部進学者3.6名(他大学及び社会人)が入学している。また、社会文化創造研究科(修士課程)への進学希望に関する調査(第1次)で進学する意向を示した者が8名であることから、内部進学者2~8名、外部進学者3名で合計は5~11名となる。臨床心理学コースは、受験者の倍率(5カ年平均)が2.3倍あり、進学希望調査の結果では現時点で8名が進学意向を示しているが、合格者に対して例年2~3名の入学辞退者が生じている。また、実習科目の受け入れ先におけるキャパシティが7名程度であることを考慮して、募集人員を7名とした。

芸術・スポーツ科学コースへと移行する現行の地域教育文化研究科文化創造専攻の入学者の実績(5カ年平均)では、内部進学者6.6名(地域教育文化学部)、外部進学者2.0名(他大学、留学生及び社会人)が入学している。また、社会文化創造研究科(修士課程)への進学希望に関する調査(第1次)で進学する意向を示した者が7名であることから、内部進学者6~7名、外部進学者2名で合計は8~9名となる。芸術・スポーツ科学コースは、接続する地域教育文化学部で芸術、スポーツを専攻する人数の変動を考慮して、募集人員を7名とした。

以上をまとめると、新研究科の入学者数は、社会文化システムコース12~13名、臨床心理学コース5~11名、芸術・スポーツ科学コース8~9名の合計25~33名が見込め、入学者数の実績、進学希望に関する調査の結果、教育環境等を踏まえて設定した募集人員である社会文化システムコース10名、臨床心理学コース7名、芸術・スポーツ科学コース7名の計24名を充足することは十分に可能である。

## 2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### ① 定員充足の状況と入学者の内訳

(資料1「社会文化システム研究科・地域教育文化研究科入学状況一覧(平成27年度から平成31年度)」、資料2「社会文化システム研究科・地域教育文化研究科入学者出身別一覧(平成27年度から平成31年度)」、資料3「社会文化システム研究科・地域教育文化研究科入学者入試区分一覧(平成27年度から平成31年度)」を参照)。

定員充足の状況について、社会文化システムコースへと移行する現行の社会文化システム研究科(修士課程)の平成27年度から平成31年度までの5カ年における入学志願者の平均は、20.8名(入学志願者の5カ年の合計104名)、入学者数の平均は13.8名(入学者数の5カ年の合計69名)である。入学者数の平均は、募集人員12名に対して13.8名(入学定員充足率の平均115%、15%の定員超過)となっている。

臨床心理学コースへと移行する地域教育文化研究科(修士課程)臨床心理学専攻の平成27年度から平成31年度までの5カ年における入学志願者の平均は、17.2名(入学志願者の5カ年の合計86名)、入学者数の平均は5.8名(入学者数の5カ年の合計29名)である。入学者数の平均は、募集人員6名に対して5.8名(入学定員充足率の平均96.7%、3.3%の定員不足)となっている。

芸術・スポーツ科学コースへと移行する地域教育文化研究科（修士課程）文化創造専攻の平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 カ年における入学志願者の平均は、10.8 名（入学志願者の 5 カ年の合計 54 名）、入学者数の平均は 8.6 名（入学者数の 5 カ年の合計 43 名）である。入学者数の平均は、募集人員 8 名に対して 8.6 名（入学定員充足率の平均 107.5%、7.5%の定員超過）となっている。

以上をまとめると、現行の社会文化システム研究科・地域教育文化研究科（修士課程）の両研究科の平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 カ年における入学者数の平均は 28.2 名（13.8 名+5.8 名+8.6 名）であり、入学定員 26 名に対して、8.5%の定員超過となっている。

入学者の内訳について、社会文化システムコースへと移行する現行の社会文化システム研究科（修士課程）の平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 カ年における入学者出身別の平均は、山形大学からの内部進学者が 4.8 名（人文社会科学部 4.2 名、他学部 0.6 名）、他大学からの入学者が 0.6 名、外国人留学生の入学者が 6.2 名、社会人の入学者が 2.2 名となっている。内部進学者以外の他大学、外国人留学生、社会人と幅広い学生が入学している状況は、現行の社会文化システム研究科（修士課程）の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）で定めている「様々な視点や広い視野を獲得して課題解決に積極的に応えていく意欲のある人を、国内外から広く受け入れます。」に基づいたものであり、外国人留学生、社会人などの多様な背景を持った学生どうしの協働や切磋琢磨を通じて課題解決力を高めていく教育の場を整備している。外国人留学生の受け入れに関しては、山形大学小白川キャンパス国際センターを設置し、Facebook による留学生向け情報発信、留学生およびその家族が入居できる山形大学国際交流会館（2 か所）、留学生に対して個別に指導・協力をを行うチューター制度など、留学生を支援する制度等を提供している。また、社会人の受け入れに関しては、社会人学生の個々のニーズに合わせ、夜間・土曜日、ならびに夏季・冬季休業期間中の授業開講や研究指導を可能とすることや、社会人学生の履修を容易にするため、2 年分の授業料で最長 4 年間在学できる「長期履修制度」、企業人・公務員向け実践的カリキュラムの提供、特に認められた場合に課題報告書をもって修士学位論文に替えることができる制度など、社会人が学びやすい環境を提供している。これらの制度を利用して、毎年、社会人が入学して学んでいる。

臨床心理学コースへと移行する地域教育文化研究科（修士課程）臨床心理学専攻の平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 カ年における入学者出身別の平均は、山形大学からの内部進学者が 2.2 名（地域教育文化学部 1.8 名、他学部 0.4 名）、他大学からの入学者が 3.4 名、社会人の入学者が 0.2 名となっている。他大学からの進学者が比較的多く、他大学等の異なる環境で学部教育を受けてきた学生同士が大学院において、良好な関わりを持ちながら学び会える状況が出来ている。

芸術・スポーツ科学コースへと移行する地域教育文化研究科（修士課程）文化創造専攻の平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 カ年における入学者出身別の平均は、山形大学からの内部進学者が 6.6 名（地域教育文化学部 6.6 名）、他大学からの入学者が 1.2 名、外国人留学生の入学者が 0.2 名、社会人の入学者が 0.6 名となっている。内部進学者の割合が高いが、地域教育文化学部内の他コースから進学してくるケースも含まれており、留学生や社会人の進学実績

もあることから、様々な背景を持つ学生が共に学び合うことが出来ている。

社会文化システムコースへと移行する現行の社会文化システム研究科（修士課程）では、一般入試、推薦入試、外国人留学生入試、社会人入試、協定校(外国人留学生)推薦入試を導入し、年2回(9月、2月)実施している。外国人留学生入試では、日本の大学を卒業していない者(海外の大学を卒業した者：B方式)には、45分間の口述試験(研究計画の妥当性、研究遂行能力・専門知識の確認)に加え、文化システム専攻では日本語試験(筆記試験)を課し、入学者の質保証を担保している。平成28年度から平成31年度までの4カ年で外国人留学生入試の志願者数の計30名のうち、11名が不合格となっている。また、協定校(外国人留学生)推薦入試では、日本語能力認定書(最上位のN1)の取得を出願条件として、海外の協定校から推薦された者のみを対象に渡日前入試を実施して、質の高い学生を確保している。

現行の社会文化システム研究科（修士課程）の外国人留学生入試の合否結果  
(平成28年度から平成31年度までの4カ年の合計)

	志願者数	合格者数	不合格者数
A方式(日本の大学を卒業した者)	6	4	2
B方式(海外の大学を卒業した者)	24	15	9
計	30	19	11

臨床心理学コース及び芸術・スポーツ科学コースへと移行する現行の地域教育文化研究科(修士課程)では、一般入試、推薦入試(令和2年度より実施のため、資料にはデータなし)、外国人留学生入試、社会人入試を実施している。地域教育文化研究科は、入学辞退者の補充のために実施した平成30年度を除き第2回選抜試験は行っていない。社会人及び外国人選抜試験を利用する受験者は例年いるが、試験の結果により多くの受験生が入学に至っていない。

## ② 外国人留学生の確保

社会文化システムコースへと移行する現行の社会文化システム研究科（修士課程）の外国人留学生の受け入れは、山形大学の留学生拡大方針に基づき、人文学部から人文社会科学部への改組に伴い、これまで私費外国人留学生入試において、「若干名」としていた募集人員を「5名」と入学者数を明確化したことや、山形大学が南米ペルー共和国のナスカ地上絵研究を含むアンデス考古学の国際的な研究拠点になっているなどの背景があり、積極的に外国人留学生を受け入れている。外国人留学生の確保の取り組みとして、留学生入試や協定校(外国人留学生)推薦入試の導入、Facebookによる留学生向け情報発信や留学生用の学生寮の提供、チューター制度などの支援制度の整備、また、ナスカ地上絵などのアンデス考古学を研究する南米ペルーからの留学生には、スペイン語による授業や研究指導を実施している。これらの取り組みもあり、徐々に留学生の入学者数が増え、平成29年度7名、平成30年度11名、平成31年度6名が入学している(資料2参照)。

平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 カ年に入学した外国人留学生の入学前の所属等は、山形大学人文学部 2 名、山形大学研究生 17 名、海外の大学（日本語学部、又は学科）5 名、海外の大学（日語日文学科）1 名、海外の大学（東洋言語学科）1 名などとなっている。半年又は 1 年間程度を山形大学研究生として在学して、学術論文・学術図書の輪講や研究の基礎などの指導を行っている。

現行の社会文化システム研究科（修士課程）に入学した外国人留学生の入学前の所属等  
（平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 カ年の合計）

入学前の所属等	人
山形大学人文学部	2
山形大学研究生	17
海外の大学（日本語学部、又は学科）	5
海外の大学（日語日文学科）	1
海外の大学（東洋言語学科）	1
海外の大学（民生学院学部）	1
その他（社会人）	4

また、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 カ年に入学した外国人留学生の国籍は、中国 20 名、ペルー 4 名、台湾 2 名、カナダ、韓国、タイ、ベナン、バングラデシュが各 1 名となっている。アジア地域の国々以外の北米、南米、アフリカからも留学生が入学している。

現行の社会文化システム研究科（修士課程）に入学した外国人留学生の国籍  
（平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 カ年の合計）

国籍	人
中国（アジア）	20
ペルー（南米）	4
台湾（アジア）	2
カナダ（北米）	1
韓国（アジア）	1
タイ（アジア）	1
ベナン（アフリカ）	1
バングラデシュ（アジア）	1

### ③ 進学意向調査

#### a. 大学院への進学希望調査（第 1 次）

山形大学大学院社会文化創造研究科（修士課程）の「社会文化システムコース」、「臨床心

理学コース」、及び「芸術・スポーツ科学コース」への進学希望状況を把握するためにアンケート調査（第1次）を実施した（資料4 大学院への進路希望調査報告）を参照）。

社会文化創造研究科（修士課程）への進学希望に関する調査は、基礎となる学部の人文社会科学部及び地域教育文化学部文化地域教育文化学科文化創生コースの3年次学生を対象に調査を実施した。調査期間は、令和元年11月25日～11月29日に質問紙調査と所属研究室等での聞き取り調査を実施した。アンケート調査と聞き取り調査への回答者は、人文社会科学部の3年次学生(327名)及び地域教育文化学部文化地域教育文化学科文化創生コースの3年次学生(95名)に対して実施し、回答数は人文社会科学部の3年次学生(220名/67%)及び地域教育文化学部文化地域教育文化学科文化創生コースの3年次学生(68名/72%)であった。なお、3年次学生以外の者は対象外とした。社会文化創造研究科（修士課程）への進学希望に関する調査結果は、資料4「大学院への進路希望調査報告《令和元年11月／山形大学大学院社会文化創造研究科設置準備委員会》」にまとめられている。

質問3は社会文化創造研究科（修士課程）への学部学生の進学意向に関するものである。調査結果では、「進学する」と「進学を検討している」を合わせた進学する意向を回答している学生は、18名（6%）であり、その内訳は、社会文化システムコースが3名、臨床心理学コースが8名、芸術・スポーツ科学コースが7名であった。また、「現時点ではわからない」と回答した学生が17名（6%）であった。

社会文化創造研究科（修士課程）への学部学生の進学意向（第1次）

	回答数	%
進学する	3	1%
社会文化創造専攻 社会文化システムコース	0	
社会文化創造専攻 臨床心理学コース	2	
社会文化創造専攻 芸術・スポーツ科学コース	1	
進学を検討している	15	5%
社会文化創造専攻 社会文化システムコース	3	
社会文化創造専攻 臨床心理学コース	6	
社会文化創造専攻 芸術・スポーツ科学コース	6	
進学しない	253	87%
現時点ではわからない	17	6%

質問4は、質問3で「進学しない」と回答した学生の理由に関するものである。最も回答数が多かった理由は、「就職を優先的に考えたいから」が219名（66%）、次いで、「経済的理由」が55名（16%）であった。

社会文化創造研究科（修士課程）への学部学生の進学しない理由（第1次）

	回答数	%
就職を優先的に考えたいから	219	66%
経済的理由	55	16%
自分が学びたい教育内容ではないから	31	9%
大学院修了後の進路に不安があるから	12	4%
他大学大学院への進学を希望しているから	9	3%
その他	6	2%

改組後の社会文化システムコースの調査結果では、学部学生が3年次時点で進学意向を回答しているものが3名となっている。

改組後の臨床心理学コースの調査結果では、学部学生が3年次時点で進学意向を回答しているものが8名となっている。また、改組後の芸術・スポーツ科学コースの調査結果では、学部学生が3年次時点で進学意向を回答しているものが7名となっており、両コースともに進学意向を回答している学生数は改組後の定員程度いる。

社会文化システム研究科のこれまでの実績において、今回の調査対象には含まれない他大学、留学生及び社会人入学者の平成27年度から平成31年度までの5カ年平均は計9名である。また、地域教育文化研究科の臨床心理学と文化創造の両専攻におけるこれまでの実績において、同様に他大学、留学生及び社会人入学者の平成27年度から平成31年度までの5カ年平均は計5.6名（それぞれ3.6名と2.0名）である。そのため、現時点での山形大学からの内部進学意向とその他の入学者のこれまで実績を合わせて考えると、全てのコースにおいて定員を満たす入学者数を確保できるものと思われる。

b. 大学院への進学希望調査（第2次）

大学院への進学希望調査（第1次）の社会文化システムコースの調査結果では、学部学生が3年次時点で進学意向を回答しているものは3名であった。しかし、現行の社会文化システム研究科（修士課程）の平成27年度から平成31年度までの5カ年における入学者の実績（平均）では、山形大学人文学部（現人文社会科学部）からの進学者は4.2名である（資料2）。進学希望調査結果と入学実績に差異がみられた。そのため、「社会文化システムコース」への進学希望状況をより正確に把握するためにアンケート調査（第2次）を実施した（資料5 大学院への進路希望調査報告（第2次）を参照）。

社会文化創造研究科（修士課程）への進学希望に関する調査（第2次）は、基礎となる学部の人文学部社会科学部の4年次学生を対象に調査を実施した。調査期間は、令和2年4月2日～4月7日にWebによる質問紙調査を実施した。アンケート調査の回答者は、人文社会科学部の4年次学生327名に対して実施し、回答数は203名（62%）であった。

質問1は社会文化創造研究科（修士課程）への学部学生の進学意向に関するものである。調査結果では、社会文化システムコースに「進学する」と回答している学生は3名（1.5%）、「進



学を検討している」と回答している学生は4名(2.0%)であり、「進学する」と「進学を検討している」を合わせた進学する意向を回答している学生は7名であった。

社会文化創造研究科(修士課程)への学部学生の進学意向(第2次)

	回答数	%
進学する	3	1.5%
社会文化創造専攻 社会文化システムコース	3	1.5%
社会文化創造専攻 臨床心理学コース	0	-
社会文化創造専攻 芸術・スポーツ科学コース	0	-
進学を検討している	4	2.0%
社会文化創造専攻 社会文化システムコース	4	2.0%
社会文化創造専攻 臨床心理学コース	0	-
社会文化創造専攻 芸術・スポーツ科学コース	0	-
授業料免除・補助、経済的支援などがあるならば進学を検討したい	19	9.3%
社会文化創造専攻 社会文化システムコース	16	7.8%
社会文化創造専攻 臨床心理学コース	1	0.5%
社会文化創造専攻 芸術・スポーツ科学コース	2	1.0%
進学は希望しない	177	87.2%

また、「授業料免除・補助、経済的支援などがあるならば進学を検討したい」と回答している学生は19名(9.3%)である(社会文化システムコースは16名(7.8%))。本学では、山形大学大学院規則による入学料・授業料免除制度(全額免除/半額免除)を設置している。この制度により入学料免除を受けた学生の入学者に対する割合について、平成27年度から平成31年度までの5カ年平均は20%(免除者/入学者、入学者28.2名、出願者9.8名、免除者5.6名)であった。また、授業料免除を受けた学生の在籍者に対する割合について、平成27年度から平成31年度までの5カ年平均は前後期ともに29%(免除者/在籍者、在籍者62.2名、出願者前期21.2名、後期20.4名、免除者前期18.2名、後期18名)であった(資料6参照)。また、教職員等による経済的修学困難学生への支援を目的とした「山形大学基金」を設立して、入学料、授業料または寄宿料の全部又は一部免除、ティーチング・アシスタント及びリサーチ・アシスタント業務に対する手当等負担等の支援を行っている。以外にも、経済的理由により、一時的に授業料等の支払いが困難になった本学学生に対して、無利子で貸与する「山形大学修学支援事業学生支援奨学金」の制度などを整備している。これらの経済的支援制度は、社会文化創造研究科(修士課程)の入学者に対しても適用する。

### 3) 学生納付金の設定と考え方

学生納付金は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令(平成16年文部科学省令第16号)」に定める「標準額」を適用し、次のとおり設定する。

入学料	282,000 円
授業料	535,800 円/年
検定料	30,000 円

#### (2) 学生確保に向けた具体的な取り組み

##### ①経済的支援制度(授業料免除、奨学金)の周知と支援

社会文化創造研究科(修士課程)では、山形大学大学院規則による入学料・授業料免除制度(全額免除/半額免除)に加え、「山形大学基金」による入学料、授業料または寄宿料の全部又は一部免除等、「山形大学修学支援事業学生支援奨学金」による経済支援制度を学生にしっかりと周知・説明する。

##### ②早期履修制度・チャレンジプログラムの実施

社会文化システムコースでは、接続する人文社会科学部において、成績優秀な学生は学部4年次に科目等履修生として大学院科目を先取り履修し、学部卒業後に推薦入試により大学院に進学して、1年間で大学院修士課程を修了できる「早期履修制度」を実施する。学部と大学院(修士課程)を5年間で終えることが可能となり、学費の負担軽減ができる。現行の社会文化システム研究科(修士課程)では、平成30年度に1名が早期履修制度により大学院に進学している。

芸術・スポーツ科学コースでは、接続する地域教育文化学部において、チャレンジプログラムが設定されている。チャレンジプログラムは、大学院への進学を前提とした6年一貫教育によって、スポーツ科学、音楽芸術、造形芸術の高度な知識と技術について学ぶプログラムで、1年次に希望者から選抜されたものが選択できる。現在1期生である学部3年次が2名、さらに2年次2名、1年次3名おり、プログラムでは大学院進学を前提とした科目履修や履修指導を受けながら、大学院進学への準備を行っている。

この2つの制度を(新)研究科でも継続実施することで、内部進学者を安定的に確保するために有効である。

##### ③大学院設置基準第14条による教育方法、及び長期履修制度(社会人学生)の実施

社会文化創造研究科(修士課程)では、社会人の入学者に対する就学支援として、大学院設置基準第14条による教育方法、及び長期履修制度を実施する。社会人学生の個々のニーズに合わせて、夜間・土曜日、ならびに夏季・冬季休業期間中の授業開講や研究指導を可能とする。また、社会人学生の履修を容易にするため、2年分の授業料で最長4年間在学できる「長期履修制度」を実施する。

#### ④入学試験制度

社会文化創造研究科（修士課程）では、一般入試、推薦入試、外国人留学生入試、社会人入試、協定校(外国人留学生)入試を導入し、年2回程度実施する。様々な学生の属性やニーズに対応した入試制度を実施することで、学部からの進学者に加え、外国人留学生や社会人を安定的に確保していく。

#### ⑤入学説明会等の開催

社会文化創造研究科（修士課程）では、説明会を毎年、年に2回以上を実施する。上記の①から④について、学部学生、社会人、留学生毎に資料を作成して、分かりやすく説明する。さらに、接続する人文社会科学部や地域教育文化学部の1、2年生にもキャリア教育と関連づけて、大学院進学について情報提供を行う。また、経済的理由により大学院への進学に迷っている学生には、指導教員（アドバイザー教員）等を通して、経済的支援制度（授業料免除、奨学金）やキャリアパス（修了者の進路情報）を周知・説明する。協定校(外国人留学生)推薦入試をしている社会文化システムコースでは、大学間協定を締結している海外の大学の学生に、協定大学を通して、大学院案内や支援制度等をまとめた資料の配布を依頼する。また、社会人に対しては、上記の説明会とは別に、行政機関、教育機関、医療機関、県内の図書館、県内企業等に学生募集要項、ポスター、パンフレットを配布するなど、積極的に広報活動を行う予定である。これらの情報提供はホームページ（日本語に加え、英語、中国語等）を作成し、国内外から入学生が集まるよう周知していく。

#### ⑥外国人留学生への支援

外国の文化や社会を専門とする教員を配置し、留学生の相談に応じることができる体制を取っていると同時に、社会文化創造研究科の位置する小白川キャンパスでは教員による留学生相談を週4日実施している。また、留学生ガイドブックを全学で作成し、勉学生活はもとより、在留資格などの手続き、山形での日常生活などの注意点を平易な文章で解説している。

留学生を支援する組織として山形大学小白川キャンパス国際センターを設置されており、Facebookによる留学生向け情報発信など留学生のケアを組織的に行っている。また、山形大学では山形市内2か所に山形大学国際交流会館（学生寮）を設置しており、留学生およびその家族が入居可能である。さらに金銭的支援においては、外国為替市場における急激な円相場の高騰等の理由により修学が困難な状況になった留学生に対し、修学支援を目的に緊急的な措置として奨学金を貸与する制度や、留学生が日本での生活に早くなれることができるように、留学生に対して個別に指導・協力を行うチューター制度を導入している。

これらの支援制度等は社会文化創造研究科に入学した留学生も利用が可能であり、パンフレットやホームページなどを通して、入学を希望する留学生に周知する。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

#### 1) 養成する人材像

今日の社会の中で、地域創生の中心となって活躍する人材には、複雑で多様な解決すべき課題を把握・理解するために国際社会で通用する能力や世界的な視点、経験を備えるとともに、地域社会・経済の活性化及び持続的発展に必要な高度な知識・技能を身に付け、新しい地域社会づくりに貢献することが強く求められる。

新研究科では、今までの学問領域の垣根を低くして、人文科学、社会科学、臨床心理学及び芸術・スポーツ科学を核にしなが、人間社会を「社会」と「文化」の関係から捉え直し、地域的な展開を新たに創造・実践できる人材を育成する。社会文化システムコースでは、世界的視野から国家や地域の理解・発展に寄与できる地域創生人材を育成する。臨床心理学コースでは、健康で豊かな社会の創造や、地域及び世界の持続的発展に貢献できる地域創生人材を育成する。芸術・スポーツ科学コースでは、健康で豊かな社会の創造や、地域及び世界における文化の発展に貢献できる地域創生人材を育成する。

#### 2) 習得させる資質・能力

改組の本研究では、上記の養成する人材像の観点及び、ディプロマ・ポリシー (DP) に従い、本研究科の学生に次の3つの資質・能力を習得させることに重点を置いている。

##### DP1 豊かな人間力

- ①これからの社会と文化の創造を担うために必要な多様な人々との関わりを通じて豊かなコミュニケーション能力を身に付けている。
- ②多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度など、これからの社会を支え、文化を継承・発展させる高度専門職業人として、学びに向かう力を有している。

##### DP2 深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野

- ①人文・社会科学と芸術・スポーツ科学に関する高度で専門的な研究を遂行することができる深い知識と高度な技能を習得し、現代社会における多様な諸課題の解決のために活用していく能力を有している。
- ②個々の専門的知識と技能の深化に加え、他の分野との連携の重要性を理解し、細分化された知を総合的な観点から俯瞰する視野を有している。

##### DP3 多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力

- ①人文・社会科学と芸術・スポーツ科学の専門的視野から、社会の急速な変化を理解し、現代社会が抱える課題の多様性を把握した上で、課題解決に向けて行動することができる。

②文化の多様性を深く理解し、世界的な視野からの多文化理解を基盤に文化の維持・発展に貢献する強い意志を有している。

**(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠**

**1) 現行の社会文化システム研究科・地域教育文化研究科(修士課程)における就職実績**

本研究科の修了者の就職状況については、資料7「社会文化システム研究科・地域教育文化研究科(修士課程)就職状況一覧(平成26年度～平成30年度)」に示している。

この5カ年に社会文化システム研究科を修了した者は平均11.2名で、進路の内訳は、公務員0.6名、企業等4.8名、教員1名、進学1.2名、その他3.6名であった。公務員では、酒田市職員、山形県教員、東北管区行政評価局(総務省)などの山形県内や東北地方の自治体に採用されている。山形県内の企業・団体等では、山形農林中央金庫、田宮印刷(株)、(株)シベール、アリオンテック(株)などに採用されている。また、東北地方の企業・団体等では、宮城交通(株)、花巻市博物館、緑川化成工業(株)などに採用されている。県内外の製造業、小売業、情報通信、サービス業、金融・保険業、運輸業、公務員など幅広い業種に就職している。その他の修了生は、帰国した留学生や社会人が多く含まれている。

この5カ年に地域教育文化研究科を修了した者は平均13.2名で、進路の内訳は、公務員1.6名、企業等5名、教員2.2名、進学0.2名、その他4.2名であった。東北地方の主な就職先は、公務員では、山形県警、宮城県警、山形県中央児童相談所などに採用されている。企業・団体等では、社会医療法人社団公德会若宮病院、(株)秋田放送、公益財団法人山形市体育協会、山形銀行女子バスケットボールチームアシスタントコーチなどに採用されている。教員では、山形県、宮城県、仙台市などに採用されている。臨床心理学専攻修了生の多くがこれらの就職先において臨床心理士等の心理に関連した職に就いている。また、文化創造専攻修了生は、教員、公務員、一般企業、法人等の職員など幅広い業種に就職している。両専攻において、その他の修了生の多くは一時的職業についているが、その内容は心理関係の専門職や非常勤講師等であり、大学院で身に付けた専門性を活かし、その後の正規採用へと向かっている内容である。

**2) 企業等のアンケート調査**

本学では、設置を計画している「社会文化創造研究科」(修士課程)に対する実社会のニーズを把握するために、企画・団体等を対象として、本学大学院の再編に関するアンケート調査を実施した(資料8「山形大学大学院(修士課程)の再編及び既設研究科の改組についてのアンケート調査」を参照)。

**①アンケート調査の対象・実施期間・実施方法等**

本アンケート調査において調査の対象としたのは、本学の学生の採用実績等を有する県内外の500社の企業・団体等を対象に、2020年(令和2年)1月28日～2月14日の期間に質問紙による郵送調査で実施した。

本アンケート調査において調査の対象とした、県内外の企業・団体等が 500 社に対して、回答数 170 社（回収率 34.0%）であった。その内訳は、山形県内企業・団体が 87 社、県外の企業・団体等が 62 社、未記入 21 社であり、製造業 41 社、卸売・小売 27 社、公務 21 団体、建設 15 社、情報通信 14 社、サービス 12 社、金融・保険 9 社、医療・福祉 5 社、複合サービス 5 社、農林魚鉱 4 社、運輸 3 社、不動産 2 社、飲食・宿泊 1 社、その他 8 社であった。

本アンケート調査は、共通の質問項目として設けられている項目も含め、全 23 項目より構成されている。そのうち、本研究科に該当する質問項目は、問 11 から問 26 までの 6 項目と自由回答欄の 1 項目である。

## ②アンケート調査の分析結果

資料 9「山形大学大学院（修士課程）の再編及び既設研究科の改組についてのアンケート調査報告」を参照されたい。

### （ア）社会文化創造研究科（修士課程）における人材養成について

質問 11 は、改組を計画している大学院社会文化創造研究科（修士課程）における養成する人材に期待する知識・能力に関する質問である。本研究科の学生に習得させるべき資質・能力として、(1)高度な専門知識・技術（DP2-①に対応）、(2)専門知識・技能の応用力、他の専門分野を俯瞰する能力（DP1-②、DP2-②に対応）、(3)自ら課題を発見し、解決する能力（DP3-①に対応）、(4)グローバル化する社会への応用力・広い視野である（DP1-①、DP3-②に対応）。

以上のアンケート結果では、(1)～(4)すべての項目に関して、「非常に期待する」、「やや期待する」と回答した企業・団体等の割合が 70～80%台に達している。以上の項目の中でも、「専門知識・技能の応用力」を持った人材育成に関して 80%、「自ら課題を発見し、解決する能力」を持った人材育成に関して 89%、「グローバル化する社会への応用力・広い視野」を持った人材育成に関して 86%と高い期待を寄せている。

以上の結果から、本研究科の改組計画は実社会のニーズに合致していると判断される。

### （イ）社会文化創造研究科（修士課程）に対する評価について

質問 12 は、「改組を計画している大学院社会文化創造研究科（修士課程）について、どのように評価するか」という質問である。アンケート結果では、「高く評価できる」と回答した企業・団体等の割合が 22%、「ある程度評価できる」と回答した企業・団体等の割合が 66%であり、これらを合算すると 88%に達している。

以上の結果から、本研究科の改組計画は企業・団体等からの評価は高いと判断される。

### （ウ）社会文化創造研究科（修士課程）修了者の採用の意向について

質問 13 は、「改組を計画している大学院社会文化創造研究科（修士課程）を修了した大学院生を採用したいか」という質問である。アンケート結果では、57 の企業・団体等が「採用を検討したい」と回答し、63 の企業・団体等が「採用してもよい」と回答しており、これらを合算

すると 120 の企業・団体等が採用の意向を示している。

社会文化創造研究科（修士課程）修了者の採用の意向

回答項目	回答数
採用を検討したい	57
採用してもよい	63
採用はない	30
その他	13
無回答	7

#### （エ）社会文化創造研究科（修士課程）修了者の採用人数について

質問 14 は、改組の大学院社会文化創造研究科（修士課程）を修了した大学院生の採用に関する質問である。質問 13 で、「採用を検討したい」、「採用してもよい」を選択した企業・団体等に、毎年、何人程度の採用を考えているか質問した。アンケート結果では、社会文化創造研究科（修士課程）修了者を 53 の企業・団体等が「1～2名」を採用する、6 の企業・団体等が「3～4名」を採用する、1 の企業・団体等が「5名以上」を採用すると回答している。

採用人数を「1～2名」と選択した企業・団体等の採用人数を 1 名、「3～4名」と選択した企業・団体等の採用人数を 3 名、「5名以上」と選択した企業・団体等の採用人数を 5 名の最小人数とした場合でも 76 名の需要がある。この採用人数は、社会文化創造研究科（修士課程）の入学定員の 24 名の 3.1 倍にあたる需要が存在することがわかる。

社会文化創造研究科（修士課程）修了者の採用人数

回答項目	回答数
1～2名	53
3～4名	6
5名以上	1
人数は未確定	60

#### （オ）社会文化創造研究科（修士課程）修了の留学生の採用の意向について

質問 13 は、「改組を計画している大学院社会文化創造研究科（修士課程）で学んだ「留学生」は選考・採用の対象になるか」という質問である。アンケート結果では、7 の企業・団体等が「確実な対象になる」、18 の企業・団体等が「有効な対象になる」、67 の企業・団体等が「対象になる」と回答しており、これらを合算すると 92 の企業・団体等が本研究科で学んだ留学生は、選考・採用の対象になると回答している。

社会文化システムコースへと移行する現行の社会文化システム研究科の入学者の実績（5 年平均）では、留学生は 6.2 名が入学しており、新研究科においても留学生 6 名程度が入学すると予想される。選考・採用の対象になると回答した企業・団体等の数は留学生の入学者数の

15 倍にあたり、留学生の就職活動先も確保されている。

社会文化創造研究科（修士課程）の留学生の採用

回答項目	回答数
確実な対象になる	7
有効な対象になる	18
対象になる	67
対象にならない	65
無回答	13

### 3) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたニーズ

現行の社会文化システム研究科・地域教育文化研究科（修士課程）における就職実績から、山形県内や東北地方をはじめとして、各地域の地方自治体、民間企業等に人材を多く輩出しており、社会のニーズに応えている。また、改組を計画している大学院社会文化創造研究科（修士課程）における養成する人材に期待する知識・能力に関する質問では、すべての項目に関して、「非常に期待する」、「やや期待する」と回答した企業・団体等の割合が 70～80%台に達している。さらに、120 の企業・団体等が修了者を採用する意向を示している。採用人数は、社会文化創造研究科（修士課程）の入学定員の 24 名の 3.1 倍にあたる需要が存在することがわかる。また、92 の企業・団体等において本研究科で学んだ留学生は、選考・採用の対象になると回答している。以上のことから、入学定員 24 名については、社会的、地域的な人材需要の動向に見合ったものであるという見通しに立つことができる。



## 学生確保の見通し等を記載した書類（資料）

### 目 次

- 資料 1 社会文化システム研究科・地域教育文化研究科 入学状況一覧  
（平成 27 年度から平成 31 年度）
- 資料 2 社会文化システム研究科・地域教育文化研究科 入学者出身別一覧  
（平成 27 年度から平成 31 年度）
- 資料 3 社会文化システム研究科・地域教育文化研究科 入学者入試区分一覧  
（平成 27 年度から平成 31 年度）
- 資料 4 大学院への進路希望調査報告
- 資料 5 大学院への進路希望調査報告（第 2 次）
- 資料 6 社会文化システム研究科・地域教育文化研究科 入学料・授業料免除実績  
（平成 27 年度から令和元年度）
- 資料 7 社会文化システム研究科・地域教育文化研究科 就職状況一覧  
（平成 26 年度から平成 30 年度）
- 資料 8 山形大学大学院（修士課程）の再編及び既設研究科の改組についてのアンケート調査
- 資料 9 山形大学大学院（修士課程）の再編及び既設研究科の改組についてのアンケート調査報告

# 資料 1

## 社会文化システム研究科・地域教育文化研究科 入学状況一覧 (平成27年度～平成31年度)

	平成27年度								平成28年度							
	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率
社会文化システム研究科	12	19	19	14	14	1.6	1.6	116.7%	12	19	19	13	12	1.6	1.6	100.0%
文化システム専攻	6	14	14	10	10	2.3	2.3	166.7%	6	10	10	5	5	1.7	1.7	83.3%
社会システム専攻	6	5	5	4	4	0.8	0.8	66.7%	6	9	9	8	7	1.5	1.5	116.7%
地域教育文化研究科	14	25	23	17	15	1.8	1.6	107.1%	14	31	26	18	16	2.2	1.9	114.3%
臨床心理学専攻	6	15	13	8	6	2.5	2.2	100.0%	6	17	13	8	6	2.8	2.2	100.0%
文化創造専攻	8	10	10	9	9	1.3	1.3	112.5%	8	14	13	10	10	1.8	1.6	125.0%

	平成29年度								平成30年度							
	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率
社会文化システム研究科	12	20	19	16	14	1.7	1.6	116.7%	12	26	25	22	18	2.2	2.1	150.0%
文化システム専攻	6	14	14	12	10	2.3	2.3	166.7%	6	20	19	16	14	3.3	3.2	233.3%
社会システム専攻	6	6	5	4	4	1.0	0.8	66.7%	6	6	6	6	4	1.0	1.0	66.7%
地域教育文化研究科	14	34	30	17	14	2.4	2.1	100.0%	14	27	22	15	13	1.9	1.6	92.9%
臨床心理学専攻	6	26	22	10	7	4.3	3.7	116.7%	6	16	12	7	5	2.7	2.0	83.3%
文化創造専攻	8	8	8	7	7	1.0	1.0	87.5%	8	11	10	8	8	1.4	1.3	100.0%

	平成31年度								5年平均								
	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	受験倍率	定員充足率	
社会文化システム研究科	12	20	20	15	11	1.7	1.7	91.7%	12	20.8	20.4	16	13.8	1.7	1.7	115.0%	
文化システム専攻	6	16	16	12	10	2.7	2.7	166.7%	6	14.8	14.6	11	9.8	2.5	2.4	163.3%	
社会システム専攻	6	4	4	3	1	0.7	0.7	16.7%	6	6	5.8	5	4	1.0	1.0	66.7%	
地域教育文化研究科	14	23	21	18	14	1.6	1.5	100.0%	14	28	24.4	17	14.4	2.0	1.7	102.9%	
臨床心理学専攻	6	12	10	8	5	2.0	1.7	83.3%	6	17.2	14	8.2	5.8	2.9	2.3	96.7%	
文化創造専攻	8	11	11	10	9	1.4	1.4	112.5%	8	10.8	10.4	8.8	8.6	1.4	1.3	107.5%	
									合計	26	48.8	24.8	33	28.2	1.9	1.3	108.5%

## 資料2

### 社会文化システム研究科・地域教育文化研究科 入学者出身別一覧 (平成27年度～平成31年度)

	平成27年度						平成28年度					
	山形大学		他大学	留学生	社会人	計	山形大学		他大学	留学生	社会人	計
	自学部	他					自学部	他				
社会文化システム研究科	8			3	3	14	3		2	4	3	12
文化システム専攻	6			2	2	10	1		2	2		5
社会システム専攻	2			1	1	4	2			2	3	7
地域教育文化研究科	8		4		3	15	10		6			16
臨床心理学専攻	1		4		1	6	1		5			6
文化創造専攻	7				2	9	9		1			10

	平成29年度						平成30年度					
	山形大学		他大学	留学生	社会人	計	山形大学		他大学	留学生	社会人	計
	自学部	他					自学部	他				
社会文化システム研究科	5			7	2	14	3	2		11	2	18
文化システム専攻	2			6	2	10	2	1		9	2	14
社会システム専攻	3			1		4	1	1		2		4
地域教育文化研究科	5	2	7			14	10		2	1		13
臨床心理学専攻	2	2	3			7	3		2			5
文化創造専攻	3		4			7	7			1		8

	平成31年度						5年平均					
	山形大学		他大学	留学生	社会人	計	山形大学		他大学	留学生	社会人	計
	自学部	他					自学部	他				
社会文化システム研究科	2	1	1	6	1	11	4.2	0.6	0.6	6.2	2.2	13.8
文化システム専攻	1	1	1	6	1	10	2.4	0.4	0.6	5	1.4	9.8
社会システム専攻	1					1	1.8	0.2		1.2	0.8	4
地域教育文化研究科	9		4		1	14	8.4	0.4	4.6	0.2	0.8	14.4
臨床心理学専攻	2		3			5	1.8	0.4	3.4		0.2	5.8
文化創造専攻	7		1		1	9	6.6		1.2	0.2	0.6	8.6

自学部：社会文化システム研究科に接続する人文社会科学部（人文学部）を示す。

自学部：地域教育文化研究科に接続する地域教育文化学部を示す。

資料 3

社会文化システム研究科・地域教育文化研究科 入学者入試区分一覧  
(平成27年度～平成31年度)

	平成27年度									平成28年度										
	第1回選抜試験				第2回選抜試験				協定校 推薦	計	第1回選抜試験				第2回選抜試験				協定校 推薦	計
	一般	推薦	留学生	社会人	一般	推薦	留学生	社会人			一般	推薦	留学生	社会人	一般	推薦	留学生	社会人		
社会文化システム研究科	1	4		1	3	3		1	1	14		2	2		1	2		3	2	12
	6				7						4				6					
文化システム専攻	1	3		1	2	3				10		1			1	1		0	2	5
社会システム専攻		1			1			1	1	4		1	2			1		3	0	7
地域教育文化研究科	12			3						15	16									16
臨床心理学専攻	5			1						6	6									6
文化創造専攻	7			2						9	10									10

	平成29年度									平成30年度										
	第1回選抜試験				第2回選抜試験				協定校 推薦	計	第1回選抜試験				第2回選抜試験				協定校 推薦	計
	一般	推薦	留学生	社会人	一般	推薦	留学生	社会人			一般	推薦	留学生	社会人	一般	推薦	留学生	社会人		
社会文化システム研究科	1	2	4	1		1	4	1		14	2	2	3	3	1		2	3	2	18
	8				6						10				6					
文化システム専攻	1		4	1			3	1		10	2	1	2	3			1	3	2	14
社会システム専攻		2				1	1			4	0	1	1	0	1		1	0	0	4
地域教育文化研究科	14									14	10				2		1			13
臨床心理学専攻	7									7	5									5
文化創造専攻	7									7	5				2		1			8

	平成31年度									5年平均										
	第1回選抜試験				第2回選抜試験				協定校 推薦	計	第1回選抜試験				第2回選抜試験				協定校 推薦	計
	一般	推薦	留学生	社会人	一般	推薦	留学生	社会人			一般	推薦	留学生	社会人	一般	推薦	留学生	社会人		
社会文化システム研究科	1	2	1	1	1	1		1	3	11	1	2.4	2	1.2	1.2	1.4	1.2	1.8	1.6	13.8
	5				3						6.6				5.6					
文化システム専攻	1	2	1	1	1			1	3	10	1	1.4	1.4	1.2	0.8	0.8	0.8	1	1.4	9.8
社会システム専攻						1			1	1		1	0.6		0.4	0.6	0.4	0.8	0.2	4
地域教育文化研究科	13			1						14	13			0.8	0.4		0.2			14.4
臨床心理学専攻	5									5	5.6			0.2						5.8
文化創造専攻	8			1						9	7.4			0.6	0.4					8.6

## 資料4

# 大学院への進路希望調査報告

令和元年 11 月

山形大学大学院社会文化創造研究科設置準備委員会

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

令和3年4月開設に向けて準備をしている山形大学大学院社会文化創造研究科（修士課程）への進学希望状況を把握することが、本アンケート調査の目的である。

### (2) 調査対象

基礎となる学部の人文社会科学部及び地域教育文化学部文化地域教育文化学科文化創生コースの3年次学生を対象に調査を実施した。（留学及び休学者を除く）

### (3) 調査方法

質問紙調査による。質問票を作成し、上記対象学生に対して、必修・選択必修科目等を通して、重複回答のないよう質問紙への記載及び配布時に口頭で周知の上、配布し、回答を回収した。また、合わせて所属研究室等での聞き取り調査も行った。

### (4) 調査時期

令和元年11月25日～11月29日

### (5) 調査対象数と回答数

人文社会科学部の3年次学生(327名)及び地域教育文化学部文化地域教育文化学科文化創生コースの3年次学生(95名)に対して実施し、回答数は人文社会科学部の3年次学生(220名/67%)及び地域教育文化学部文化地域教育文化学科文化創生コースの3年次学生(68名/72%)であった。

なお、質問票配布授業において調査対象である3年次以外の履修者が存在するが、問3以降の設問は調査対象外としている。

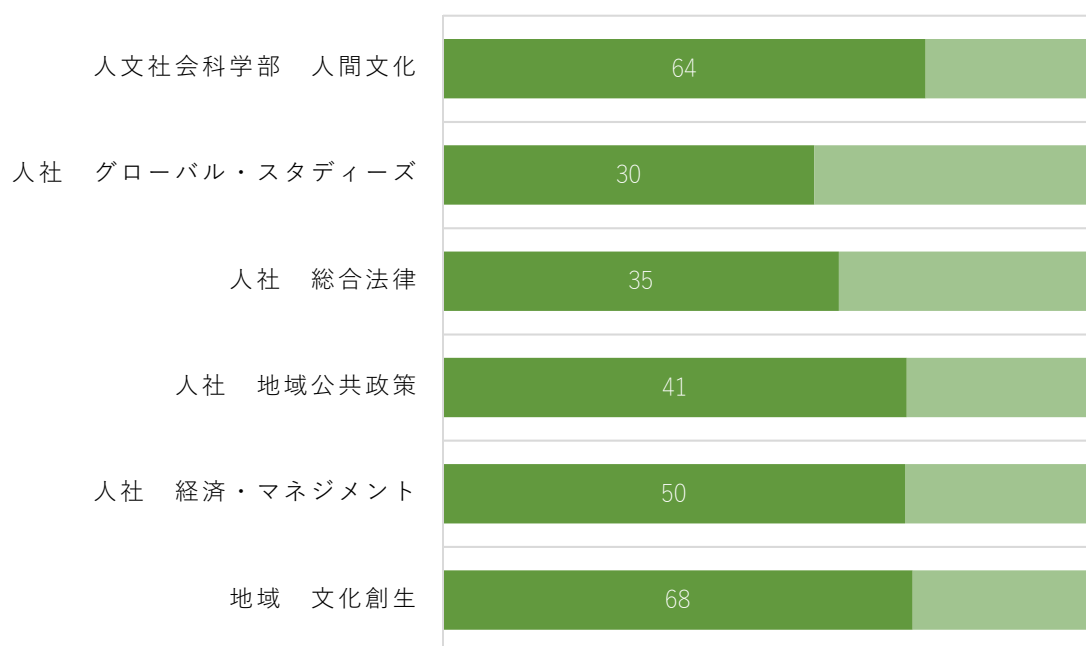
### (6) 集計分析

小白川キャンパス事務部教務課が集計し、山形大学大学院社会文化創造研究科設置準備委員会において分析を行った。

問1 あなたの所属学部等をお教えてください。

問2 あなたの学年をお教えてください。

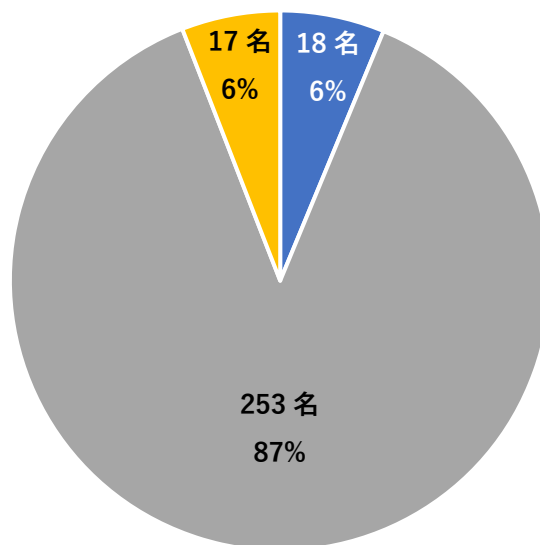
		対象者数	回答数	%
人文社会科学部 人文社会科学科	人間文化コース	87	64	74%
	グローバル・スタディーズコース	53	30	57%
	総合法律コース	58	35	60%
	地域公共政策コース	58	41	71%
	経済・マネジメントコース	71	50	70%
地域教育文化学部 地域教育文化学科	文化創生コース	95	68	72%
合 計		422	288	68%



問3 あなたは山形大学大学院社会文化創造研究科への進学を希望していますか。

「1. 進学する」又は「2. 進学を検討している」と回答される方は、希望専攻・コースにも○を付けてください。

	回答数	%
進学する	3	1%
社会文化創造専攻 社会文化システムコース	0	
社会文化創造専攻 臨床心理学コース	2	
社会文化創造専攻 芸術・スポーツ科学コース	1	
進学を検討している	15	5%
社会文化創造専攻 社会文化システムコース	3	
社会文化創造専攻 臨床心理学コース	6	
社会文化創造専攻 芸術・スポーツ科学コース	6	
進学しない	253	87%
現時点ではわからない	17	6%

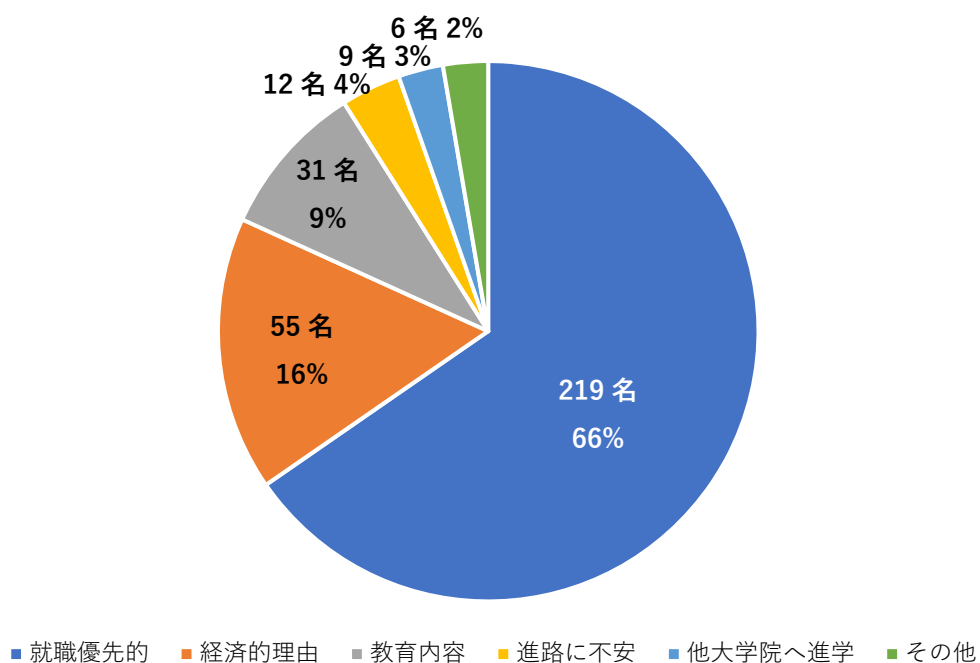


■ 進学する又は進学を検討している ■ 進学しない ■ 現時点ではわからない



問4 問3で「3. 進学しない」と回答された方におうかがいします。そのように回答した理由をお聞かせください。(複数回答可)

	回答数	%
就職を優先的に考えたいから	219	66%
経済的理由	55	16%
自分が学びたい教育内容ではないから	31	9%
大学院修了後の進路に不安があるから	12	4%
他大学大学院への進学を希望しているから	9	3%
その他	6	2%



学生のみなさんへ

## 大学院への進学希望調査

令和元年11月

山形大学小白川キャンパス事務部教務課

このアンケートは、令和3年4月開設に向けて現在準備している山形大学大学院社会文化創造研究科社会文化創造専攻(修士課程)の「社会文化システムコース」「臨床心理学コース」「芸術・スポーツ科学コース」への進学希望状況を調査し、新大学院設置に向けての参考資料とさせていただくものです。

回答いただいたデータは今回の調査の目的以外に使われることはなく、統計的な処理を施しますので、個人が特定されることはありません。お手数ですが、裏面の研究科概要に関する資料にお目通しをいただいた上で、以下の問いにお答えくださいますようお願いいたします。※回答は、あてはまる数字に○を付けてください。

問1 あなたの所属学部等をお教えてください。

【人文社会科学部 人文社会科学科】

1. 人間文化コース
2. グローバル・スタディーズコース
3. 総合法律コース
4. 地域公共政策コース
5. 経済・マネジメントコース

【人文学部】

1. 人間文化学科
2. 法経政策学科

【地域教育文化学部 地域教育文化学科】

1. 児童教育コース
2. 文化創生コース

問2 あなたの学年をお教えてください。

1. 1年生
2. 2年生
3. 3年生
4. 4年生

問3 あなたは山形大学大学院社会文化創造研究科への進学を希望していますか。

「1. 進学する」又は「2. 進学を検討している」と回答される方は、希望コースにも○を付けてください。

1. 進学する

- ①社会文化システムコース ②臨床心理学コース ③芸術・スポーツ科学コース

2. 進学を検討している

- ①社会文化システムコース ②臨床心理学コース ③芸術・スポーツ科学コース

3. 進学しない

4. 現時点ではわからない

問4 問3で「3. 進学しない」と回答された方におうかがいします。そのように回答した理由をお聞かせください。

(複数回答可)

1. 自分が学びたい教育内容ではないから
2. 他大学大学院への進学を希望しているから
3. 経済的理由
4. 大学院修了後の進路に不安があるから
5. 就職を優先的に考えたいから
6. その他( )

質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。

## 資料 5

# 大学院への進路希望調査報告（第 2 次）

令和元年 4 月

山形大学大学院社会文化創造研究科設置準備委員会

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

令和3年4月開設に向けて準備をしている山形大学大学院社会文化創造研究科（修士課程）への進学希望状況を把握することが、本アンケート調査の目的である。

### (2) 調査対象

基礎となる学部の人文社会科学部の4年次学生を対象に調査を実施した。（留学及び休学者を除く）

### (3) 調査方法

Webによる質問紙調査を実施した。

### (4) 調査時期

令和元年4月2日～4月7日

### (5) 調査対象数と回答数

人文社会科学部の4年次学生(327名)に対して実施し、回答数は203名（62%）であった。

### (6) 集計分析

小白川キャンパス事務部教務課が集計し、山形大学大学院社会文化創造研究科設置準備委員会において分析を行った。

問1 あなたは山形大学大学院社会文化創造研究科へ進学したいですか。

項目	回答数	%
1. 進学する	3	1.5%
①社会文化システムコース	3	1.5%
②臨床心理学コース	0	—
③芸術・スポーツ科学コース	0	—
2. 進学を検討している	4	2.0%
①社会文化システムコース	4	2.0%
②臨床心理学コース	0	—
③芸術・スポーツ科学コース	0	—
3. 授業料免除・補助、経済的支援などがあるならば 進学を検討したい	19	9.3%
①社会文化システムコース	16	7.8%
②臨床心理学コース	1	0.5%
③芸術・スポーツ科学コース	2	1.0%
4. 進学は希望しない	177	87.2%

問2 問1で「4. 進学は希望しない」と回答された方におうかがいします。そのように回答した理由をお聞かせください。(複数回答可)

項目	回答数	%
大学卒業後はすぐに就職したい	159	65.4%
経済的理由	38	15.6%
自分が学びたい教育内容ではないから	21	8.6%
大学院修了後の進路に不安があるから	21	8.6%
他大学大学院への進学を希望しているから	2	0.8%
その他	2	0.8%

Webによりアンケート実施

対象:4年生

学生のみなさんへ

大学院への進学希望調査(第2次)

令和元年4月

山形大学小白川キャンパス事務部教務課

このアンケートは、令和3年4月開設に向けて現在準備している山形大学大学院社会文化創造研究科社会文化創造専攻(修士課程)の「社会文化システムコース」「臨床心理学コース」「芸術・スポーツ科学コース」への進学希望状況を調査し、新大学院設置に向けての参考資料とさせていただくものです。

回答いただいたデータは今回の調査の目的以外に使われることはなく、統計的な処理を施しますので、個人が特定されることはありません。お手数ですが、裏面の研究科概要に関する資料にお目通しをいただいた上で、以下の問いにお答えくださいますようお願いいたします。※回答は、あてはまる数字に○を付けてください。

問1 あなたは山形大学大学院社会文化創造研究科へ進学したいですか。

「4. 進学しない」以外を回答される方は、希望コースにも○を付けてください。

1. 進学する

①社会文化システムコース ②臨床心理学コース ③芸術・スポーツ科学コース

2. 進路の選択肢のひとつとして進学を検討している

①社会文化システムコース ②臨床心理学コース ③芸術・スポーツ科学コース

3. 授業料免除・補助、経済的支援などがあるならば進学を検討したい

①社会文化システムコース ②臨床心理学コース ③芸術・スポーツ科学コース

4. 進学は希望しない

問2 問1で「4. 進学は希望しない」と回答された方におうかがいします。そのように回答した理由をお聞かせください。

(複数回答可)

1. 自分が学びたい教育内容ではないから 2. 他大学大学院への進学を希望しているから

3. 経済的理由 4. 大学院修了後の進路に不安があるから

5. 大学卒業後はすぐに就職したいから

6. その他( )

質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。

# 山形大学大学院社会文化創造研究科(修士課程)社会文化創造専攻の概要(入学定員:24名)

世界的視野を有する地域創生(グローバル)人材を育成する

大学院修士課程

社会文化創造研究科

社会文化創造専攻

芸術・スポーツ科学コース

臨床心理学コース

社会文化システムコース

学士課程

児童教育コース

文化創生コース

人間文化コース

グローバル・スタディー

地域公共政策コース

総合法律コース

経済・マネジメントコース

地域教育文化学科

人文社会科学部

人材像

本研究科では、今までの学問領域の垣根を低くして、人文科学、社会科学および芸術・スポーツ科学を核にしなが、**人間世界を「社会」と「文化」の関係から捉え直し、地域的な展開を新たに創造・実践できる人材を養成します。**

芸術・スポーツ科学コース

●養成する人材

音楽芸術、造形芸術、スポーツ科学の領域において、文化の活性化に寄与する高度な専門的職業人を養成します。

想定される主な就職先

中高教員、地方自治体職員、山形県内外の企業

臨床心理学コース

●養成する人材

教育・福祉・医療・保健・産業等の領域において、臨床心理学の知識や諸技法を活かしてこころのケアに貢献できる高度な専門家を養成します。  
(臨床心理士、公認心理師に対応したカリキュラム)

想定される主な就職先

地方自治体職員、国家公務員、大学教員等研究職、中高教員、山形県内外の企業

社会文化システムコース

●養成する人材

考古人類学をはじめ、言語・文化学、日本学、人間科学・思想文化学、歴史学、グローバル文化学、公共システム、企業システム、国際システムなど、**人文・社会科学**の専門知を備えて社会・文化の発展に貢献できる高度専門職業人を養成します。

想定される主な就職先

地方自治体職員、国家公務員、大学教員等研究職、中高教員、山形県内外の企業

## 従来の大学院からの主な変更点

- ✓ 専門知識の深化に加え、**広く社会で活躍**できるよう俯瞰的視野・複眼的視野育成を目指した**体系的なカリキュラム**を提供します。
- ✓ 他分野の教員も含めた3名の指導教員からなる**充実した研究指導**を行います。
- ✓ 多様な社会文化的な背景を持つ**学生が交流する取り組み**を推進します。  
(参考) 留学生比率23%、社会人比率11%、  
山形大学出身者比率48%、他大学出身者比率

## 山形県内外170社への新大学院に関するアンケート調査結果概要(令和2年1月実施)

山形大学が改組を計画している大学院社会文化創造研究科(修士課程)について、どのように評価しますか。

山形大学が改組を計画している大学院社会文化創造研究科(修士課程)を修了した大学院生を採用したいと考えますか。

「採用を検討したい」、「採用してもよい」をした場合、毎年、何名程度の採用を考えますか。

回答項目	回答数	%	回答項目	回答数	%	回答項目	回答数	%
高く評価できる	36	22	採用を検討したい	57	34	1~2名	53	53
ある程度評価できる	113	66	採用してもよい	63	37	3~4名	6	6
あまり評価できない	2	1	採用はない	30	18	5名以上	1	1
全く評価できない	0	0	その他	13	7	人数は未確定	60	60
その他	12	7	無回答	7	4			
無回答	7	4						

回答した企業の7割が、大学院修了者採用を検討したい、もしくは、採用してもよいと回答しています。

資料6

社会文化システム研究科・地域教育文化研究科 入学料・授業料免除実績  
(平成27年度～令和元年度)

平成27年度

	入学料免除						授業料免除										
	入学者	出願者	免除者	%	全額	半額	在籍者	前期					後期				
								出願者	免除者	%	全額	半額	出願者	免除者	%	全額	半額
社会文化システム研究科	14	2	2	14%	0	2	27	7	7	26%	7	0	9	9	33%	8	1
一般	11	0	0	0%	0	0	21	2	2	10%	2	0	3	3	14%	3	0
留学生	3	2	2	67%	0	2	6	5	5	83%	5	0	6	6	100%	5	1
地域教育文化研究科	15	2	0	0%	0	0	31	6	5	16%	3	2	8	8	26%	6	2
一般	15	2	0	0%	0	0	31	6	5	16%	3	2	8	8	26%	6	2
留学生																	
合計	29	4	2	7%	0	2	58	13	12	21%	10	2	17	17	29%	14	3

平成28年度

	入学料免除						授業料免除										
	入学者	出願者	免除者	%	全額	半額	在籍者	前期					後期				
								出願者	免除者	%	全額	半額	出願者	免除者	%	全額	半額
社会文化システム研究科	12	8	5	42%	0	5	30	15	13	43%	12	1	11	10	33%	9	1
一般	8	4	1	13%	0	1	22	8	6	27%	6	0	4	3	14%	3	0
留学生	4	4	4	100%	0	4	8	7	7	88%	6	1	7	7	88%	6	1
地域教育文化研究科	16	4	2	13%	1	1	36	6	6	17%	3	3	7	6	17%	3	3
一般	16	4	2	13%	1	1	36	6	6	17%	3	3	7	6	17%	3	3
留学生																	
合計	28	12	7	25%	1	6	66	21	19	29%	15	4	18	16	24%	12	4

平成29年度

	入学料免除						授業料免除										
	入学者	出願者	免除者	%	全額	半額	在籍者	前期					後期				
								出願者	免除者	%	全額	半額	出願者	免除者	%	全額	半額
社会文化システム研究科	14	7	5	36%	0	5	31	14	12	39%	12	0	14	12	39%	11	1
一般	7	0	0	0%	0	0	20	3	3	15%	3	0	3	3	15%	2	1
留学生	7	7	5	71%	0	5	11	11	9	82%	9	0	11	9	82%	9	0
地域教育文化研究科	14	2	0	0%	0	0	31	6	5	16%	2	3	6	5	16%	1	4
一般	14	2	0	0%	0	0	31	6	5	16%	2	3	6	5	16%	1	4
留学生																	
合計	28	9	5	18%	0	5	62	20	17	27%	14	3	20	17	27%	12	5

平成30年度

	入学料免除						授業料免除										
	入学者	出願者	免除者	%	全額	半額	在籍者	前期					後期				
								出願者	免除者	%	全額	半額	出願者	免除者	%	全額	半額
社会文化システム研究科	18	11	8	44%	0	8	41	19	17	41%	15	2	17	14	34%	14	0
一般	7	5	3	43%	0	3	23	3	2	9%	1	1	2	1	4%	1	0
留学生	11	6	5	45%	0	5	18	16	15	83%	14	1	15	13	72%	13	0
地域教育文化研究科	13	2	1	8%	0	1	28	9	6	21%	4	2	7	6	21%	4	2
一般	12	2	1	8%	0	1	27	8	5	19%	3	2	6	5	19%	3	2
留学生	1	0	0	0%	0	0	1	1	1	100%	1	0	1	1	100%	1	0
合計	31	13	9	29%	0	9	69	28	23	33%	19	4	24	20	29%	18	2

平成31年度(令和元年度)

	入学料免除						授業料免除										
	入学者	出願者	免除者	%	全額	半額	在籍者	前期					後期				
								出願者	免除者	%	全額	半額	出願者	免除者	%	全額	半額
社会文化システム研究科	11	8	3	27%	0	3	29	17	16	55%	16	0	19	17	59%	17	0
一般	5	3	0	0%	0	0	12	4	3	25%	3	0	4	3	25%	3	0
留学生	6	5	3	50%	0	3	17	13	13	76%	13	0	15	14	82%	14	0
地域教育文化研究科	14	3	2	14%	0	2	27	7	4	15%	3	1	4	3	11%	3	0
一般	14	3	2	14%	0	2	26	6	3	12%	2	1	3	2	8%	2	0
留学生							1	1	1	100%	1	0	1	1	100%	1	0
合計	25	11	5	20%	0	5	56	24	20	36%	19	1	23	20	36%	20	0

5年平均

	入学料免除						授業料免除										
	入学者	出願者	免除者	%	全額	半額	在籍者	前期					後期				
								出願者	免除者	%	全額	半額	出願者	免除者	%	全額	半額
社会文化システム研究科	13.8	7.2	4.6	33%	0	4.6	31.6	14.4	13	41%	12.4	0.6	14	12.4	39%	11.8	0.6
一般	7.6	2.4	0.8	11%	0	0.8	19.6	4	3.2	16%	3	0.2	3.2	2.6	13%	2.4	0.2
留学生	6.2	4.8	3.8	61%	0	3.8	12	10.4	9.8	82%	9.4	0.4	10.8	9.8	82%	9.4	0.4
地域教育文化研究科	14.4	2.6	1	7%	0.2	0.8	30.6	6.8	5.2	17%	3	2.2	6.4	5.6	18%	3.4	2.2
一般	14.2	2.6	1	7%	0.2	0.8	30.2	6.4	4.8	16%	2.6	2.2	6	5.2	17%	3	2.2
留学生	0.2	0	0	0%	0	0	0.4	0.4	0.4	100%	0.4	0	0.4	0.4	100%	0.4	0
合計	28.2	9.8	5.6	20%	0.2	5.4	62.2	21.2	18.2	29%	15.4	2.8	20.4	18	29%	15.2	2.8



# 資料7

## 社会文化システム研究科・地域教育文化研究科 就職状況一覧

(平成26年度～平成30年度)

平成26年度

	修了者	公務員	企業等	教員	進学	その他	その他の内訳
社会文化システム研究科	11	1	4	1	1	4	
文化システム専攻	10	1	4	1	1	3	就職活動中(1)、就職希望せず(2)、帰国(1)
社会システム専攻	1	0	0	0	0	1	就職希望せず(1)
地域教育文化研究科	13	2	2	1	0	8	
臨床心理学専攻	5	2	0	0	0	3	就職活動中(1)、一時的職業(2)
文化創造専攻	8	0	2	1	0	5	一時的職業(4)、不明(1)

平成27年度

	修了者	公務員	企業等	教員	進学	その他	その他の内訳
社会文化システム研究科	6	0	2	0	0	4	
文化システム専攻	2	0	1	0	0	1	帰国(1)
社会システム専攻	4	0	1	0	0	3	就職活動中(1)、就職希望せず(1)、専門学校(1)
地域教育文化研究科	11	2	4	1	1	3	
臨床心理学専攻	3	0	1	0	1	1	一時的職業(1)
文化創造専攻	8	2	3	1	0	2	就職希望せず(1)、進学準備中(1)

平成28年度

	修了者	公務員	企業等	教員	進学	その他	その他の内訳
社会文化システム研究科	12	1	7	2	1	1	
文化システム専攻	7	1	4	1	1	0	
社会システム専攻	5	0	3	1	0	1	帰国(1)
地域教育文化研究科	15	0	6	4	0	5	
臨床心理学専攻	6	0	3	0	0	3	一時的職業(3)
文化創造専攻	9	0	3	4	0	2	就職希望せず(1)、一時的職業(1)

平成29年度

	修了者	公務員	企業等	教員	進学	その他	その他の内訳
社会文化システム研究科	8	1	1	0	2	4	
文化システム専攻	4	0	0	0	2	2	就職希望せず(1)、帰国(1)
社会システム専攻	4	1	1	0	0	2	就職希望せず(1)、帰国(1)
地域教育文化研究科	13	2	4	4	0	3	
臨床心理学専攻	6	2	3	0	0	1	一時的職業(1)
文化創造専攻	7	0	1	4	0	2	就職希望せず(1)、一時的職業(1)

平成30年度

	修了者	公務員	企業等	教員	進学	その他	その他の内訳
社会文化システム研究科	19	0	10	2	2	5	
文化システム専攻	13	0	6	2	0	5	就職活動中(2)、就職希望せず(3)
社会システム専攻	6	0	4	0	2	0	
地域教育文化研究科	14	2	9	1	0	2	
臨床心理学専攻	7	1	5	0	0	1	公務員試験準備中(1)
文化創造専攻	7	1	4	1	0	1	一時的職業(1)

	5年平均					
	修了者	公務員	企業等	教員	進学	その他
社会文化システム研究科	11.2	0.6	4.8	1	1.2	3.6
文化システム専攻	7.2	0.4	3	0.8	0.8	2.2
社会システム専攻	4	0.2	1.8	0.2	0.4	1.4
地域教育文化研究科	13.2	1.6	5	2.2	0.2	4.2
臨床心理学専攻	5.4	1	2.4	0	0.2	1.8
文化創造専攻	7.8	0.6	2.6	2.2	0	2.4

## 山形大学大学院(修士課程)の再編及び既設研究科の改組について のアンケート調査

- ・日頃より、山形大学の教育研究にご支援いただき、また、学生の就職にご配慮いただき、誠にありがとうございます。
- ・このアンケート調査は、山形大学が令和3年度(2021年度)に計画している大学院(修士課程)の再編、具体的には社会文化システム研究科と地域教育文化研究科を統合した[社会文化創造研究科(修士課程)]と、既設研究科の改組[農学研究科(修士課程)]について、貴社・既団体等のご意見を伺うことを目的として実施するものであります。
- ・このアンケート調査の結果は、統計資料と学生のキャリア支援の充実にのみ用い、他の目的で使用することはありません。
- ・回答は、該当する番号に○をつけてください。必要に応じて記述欄への記入もお願いいたします。
- ・回答は、人材育成・採用に関わっている方をお願いいたします。

### ◆目次◆

- P1 大学院(修士課程)の再編内容
  - P2~4 問1~問10(研究科共通)
  - P5~7 問11~問16(社会文化創造研究科)
  - P8~10 問17~問22(農学研究科)
  - P10 問23(研究科共通)
- 業種によっては、どちらか一方への回答でも構いません。

山形大学

### ◆アンケート調査の回答期限についてお願い◆

令和2年2月14日(金)までに、郵送(同封の返信封筒)にてご回答いただきますようお願いいたします。

問合せ先

山形大学小白川キャンパス事務部総務課総務担当(地域教育文化学部)

電話：023-628-4304

メールアドレス：[kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)

— ご協力をよろしくお願いいたします。 —

# 山形大学大学院（修士課程）の再編内容

現行

令和3年4月～

## 社会文化システム研究科

専攻	入学定員	学位
文化システム専攻	6名	修士(文学)
社会システム専攻	6名	修士(政策科学)

## 地域教育文化研究科

専攻	入学定員	学位
臨床心理学専攻	6名	修士(臨床心理学)
文化創造専攻	8名	修士(学術)

## 社会文化創造研究科

専攻	入学定員	募集人員	コース	学位
社会文化創造専攻	24名	10名	社会文化システム	修士(文学) 修士(政策科学)
		7名	臨床心理学	修士(臨床心理学)
		7名	芸術・スポーツ科学	修士(学術)

## 農学研究科 【改組】

専攻	入学定員	コース	学位
生物生産学専攻	12名	安全農産物生産学コース	修士(農学)
		食農環境マネジメント学コース	
生物資源学専攻	14名	食品・応用生命科学コース	
		植物機能開発学コース	
生物環境学専攻	10名	森林科学コース	
		水土環境科学コース	

専攻	入学定員	学位
農学専攻	32名	修士(農学)



問4 山形大学大学院（修士課程）の再編では、地域企業、自治体等における実習等の導入を検討しています。

実習等の受け入れについて、お考えに近い番号を1つ選んで、○をつけてください。

- |                |   |   |     |
|----------------|---|---|-----|
| 1 ぜひ受け入れたい     | } | → | 問5へ |
| 2 可能であれば受け入れたい |   |   |     |
| 3 あまり受け入れたくない  | } | → | 問6へ |
| 4 受け入れられない     |   |   |     |

問5 問4で「ぜひ受け入れたい」又は「可能であれば受け入れたい」を選択した場合、その理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 学生に事業内容等を理解してもらい、就職につなげるため
- 2 社員の成長につながるため
- 3 職場内の活性化
- 4 企業・団体等のPRにつなげるため
- 5 大学との連携を強化するため
- 6 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

問6 問4で「あまり受け入れたくない」又は「受け入れられない」を選択した場合、その理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 学生の受入体制が整っていないため
- 2 学生を受け入れてもメリットが無いため
- 3 業務上の守秘義務が生じるため
- 4 実施する期間が無いため
- 5 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

問 7 アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度について、該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

- 1 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
- 2 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
- 3 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

問 8 貴社・貴団体等の業種について、該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

- 1 農・林・漁・鉱業
- 2 建設業
- 3 製造業
- 4 情報通信業
- 5 運輸業
- 6 卸売・小売業
- 7 金融・保険業
- 8 不動産業
- 9 飲食店・宿泊業
- 10 医療・福祉
- 11 複合サービス業
- 12 サービス業
- 13 公務
- 14 その他（ ）

問 9 貴社・貴団体等の従業員数（正社員数）について、該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

- 1 50名未満
- 2 50名～100名未満
- 3 100名～500名未満
- 4 500名～1,000名未満
- 5 1,000名～5,000名未満
- 6 5,000名以上

問 10 貴社・貴団体等では山形大学の大学院修了生を採用していますか。該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

- 1 採用している
- 2 採用したことはない

## 【大学院 社会文化創造研究科(修士課程)の再編について】

まず、こちらの説明をお読みください。

山形大学では、「人文社会科学、地域教育文化学部を基盤に多様な人的リソースを結集させた教育研究の再構築」を目的として、令和3年度(2021年度)に大学院社会文化システム研究科と大学院地域教育文化研究科を統合した[大学院社会文化創造研究科(修士課程)]に改組する計画を進めています。

### [改組後の研究科の目的]

- 今までの学問領域の垣根を低くして、人文科学、社会科学及び芸術・スポーツ科学を核にしなが、人間世界を「社会」と「文化」の関係から捉え直し、地域的な展開を新たに創造・実践できる人材を育成します。

### [改組による主な変更点]

- 新たな一専攻（「社会文化創造専攻」）のもとに、三つのコースと6の研究指導分野を設置します。

[コース]	[研究指導分野]
社会文化システムコース	文化システム 考古人類学 社会システム
臨床心理学コース	臨床心理
芸術・スポーツ科学コース	芸術 スポーツ科学

### [教育カリキュラムの特色]

- 人文科学と社会科学、ならびに芸術・スポーツ科学を核にしなが、世界的視野を有する地域創生人材を育成する教育カリキュラムを編成します。
- 地域との協働による授業科目の開設、アクティブラーニング、実習等を充実させます。
- 専攻・コース間の連携を強化し、分野連携科目の開設や他専攻・コースの科目履修を可能にします。
- 異分野連携による複数指導教員で研究指導等の教育を実施します。





問 16 山形大学が改組を計画している大学院社会文化創造研究科（修士課程）で学んだ「留学生」は、選考・採用の対象になりますか。該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

- 1 確実な選考・採用の対象になる
- 2 有効な選考・採用の対象になる
- 3 選考・採用の対象になる
- 4 選考・採用の対象にならない

**引き続き、農学研究科のアンケートにお答え願います。**

## 資料 9

# 山形大学大学院（修士課程）の再編及び既設研究科の 改組についてのアンケート調査報告 （社会文化創造研究科（修士課程）の再編）

令和2年3月

山形大学大学院社会文化創造研究科設置準備委員会

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

令和3年4月開設に向けて準備をしている山形大学大学院社会文化創造研究科（修士課程）に対する社会的ニーズを把握することが本アンケート調査の目的である。調査は、再編を計画している社会文化創造研究科（修士課程）とともに、農学研究科（修士課程）の改組に対する内容を含んだ「山形大学大学院（修士課程）の再編及び既設研究科の改組についてのアンケート調査」として実施された。

### (2) 調査対象

本学の学生の採用実績等を有する県内外の500社の企業・団体等を対象とした。

### (3) 調査方法

山形大学が再編及び改組の内容を説明と調査票を上記対象に郵送にて送付し、回答を回収した。なお、調査票は共通する質問項目（問1～10、23）と社会文化創造研究科（修士課程）に関する質問（問11～16）と農学研究科（修士課程）に関する質問（問17～22）とで構成した。本報告は社会文化創造研究科（修士課程）に関する質問項目についてまとめている。

### (4) 調査時期

令和2年1月28日～2月14日

### (5) 調査対象数と回答数

調査の対象とした、県内外の企業・団体等が500社に対して、回答数170社（回収率34%）であった。

### (6) 集計分析

小白川キャンパス事務部総務課が集計し、山形大学大学院社会文化創造研究科設置準備委員会において結果内容を確認し、調査報告を作成した。

## 2. 調査結果

基本属性（回答数：170社（回収率34.0%））

### A. アンケート調査に回答した企業・団体等の業種内訳（単位：社）

製造	卸売・小売	公務	建設	情報通信
41	27	21	15	14
サービス	金融・保険	医療・福祉	複合サービス	林業魚鉱
12	9	5	5	4
運輸	不動産	飲食・宿泊	その他	無回答
3	2	1	8	3

### B. アンケート調査に回答した企業・団体等の所在地

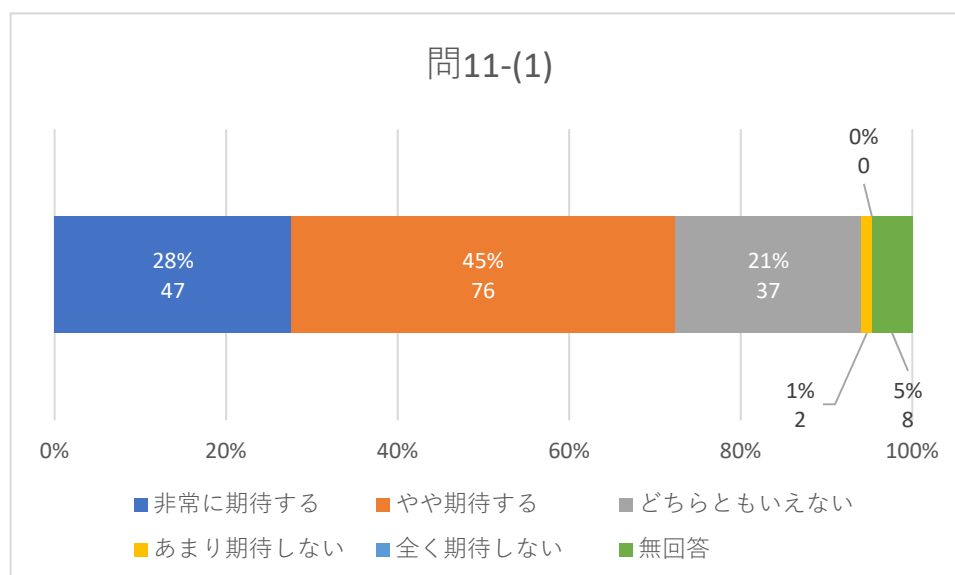
所在地	社数
山形県内	87
東北地方（山形県を除く）	30
その他の都道府県	32
無記入	21
計	170

(1) 大学院社会文化創造研究科（修士課程）への期待と評価

問 11 山形大学が改組を計画している大学院社会文化創造研究科（修士課程）において養成する人材に対して、どのような知識・能力を期待しますか。

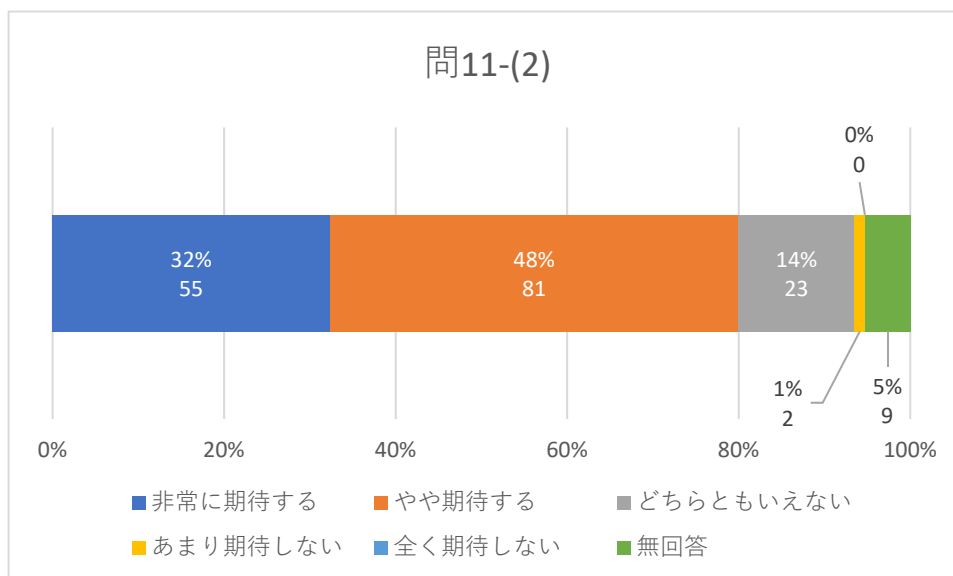
①高度な専門知識・技術

回答項目	回答数	%
非常に期待する	47	28
やや期待する	76	45
どちらともいえない	37	21
あまり期待しない	2	1
全く期待しない	0	0
無回答	8	5



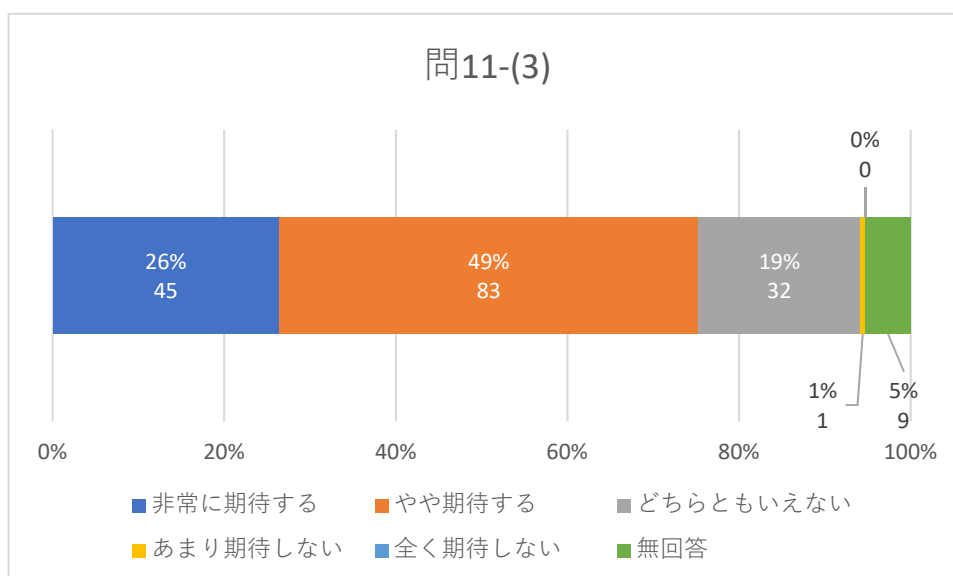
②専門知識・技能の応用力

回答項目	回答数	%
非常に期待する	55	32
やや期待する	81	48
どちらともいえない	23	14
あまり期待しない	2	1
全く期待しない	0	0
無回答	9	5



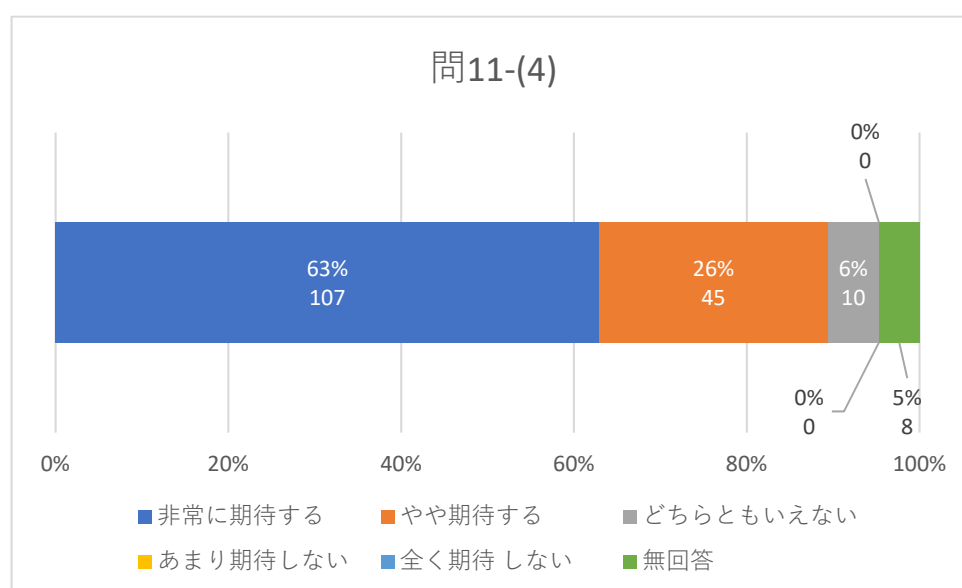
③他の専門分野を俯瞰する能力

回答項目	回答数	%
非常に期待する	45	26
やや期待する	83	49
どちらともいえない	32	19
あまり期待しない	1	1
全く期待しない	0	0
無回答	9	5



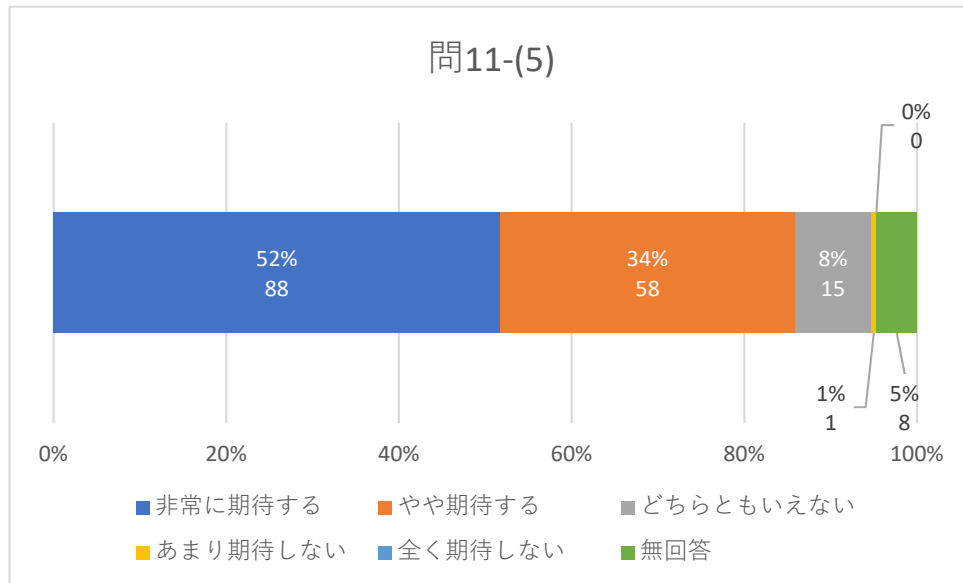
④自ら課題を発見し、解決する能力

回答項目	回答数	%
非常に期待する	107	63
やや期待する	45	26
どちらともいえない	10	6
あまり期待しない	0	0
全く期待しない	0	0
無回答	8	5



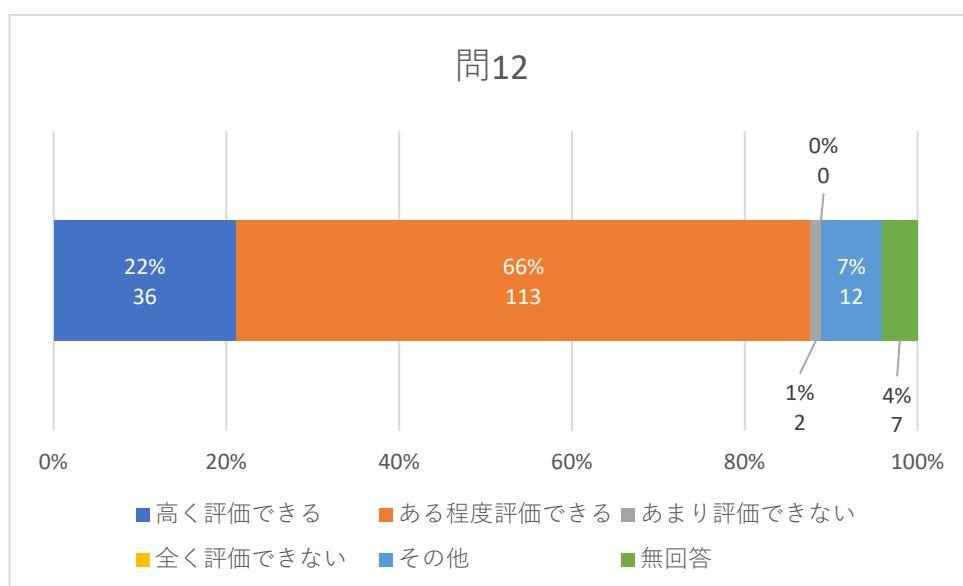
⑤グローバル化する社会への対応力・広い視野

回答項目	回答数	%
非常に期待する	88	52
やや期待する	58	34
どちらともいえない	15	8
あまり期待しない	1	1
全く期待しない	0	0
無回答	8	5



問 12 山形大学が改組を計画している大学院社会文化創造研究科（修士課程）について、どのように評価しますか。

回答項目	回答数	%
高く評価できる	36	22
ある程度評価できる	113	66
あまり評価できない	2	1
全く評価できない	0	0
その他	12	7
無回答	7	4

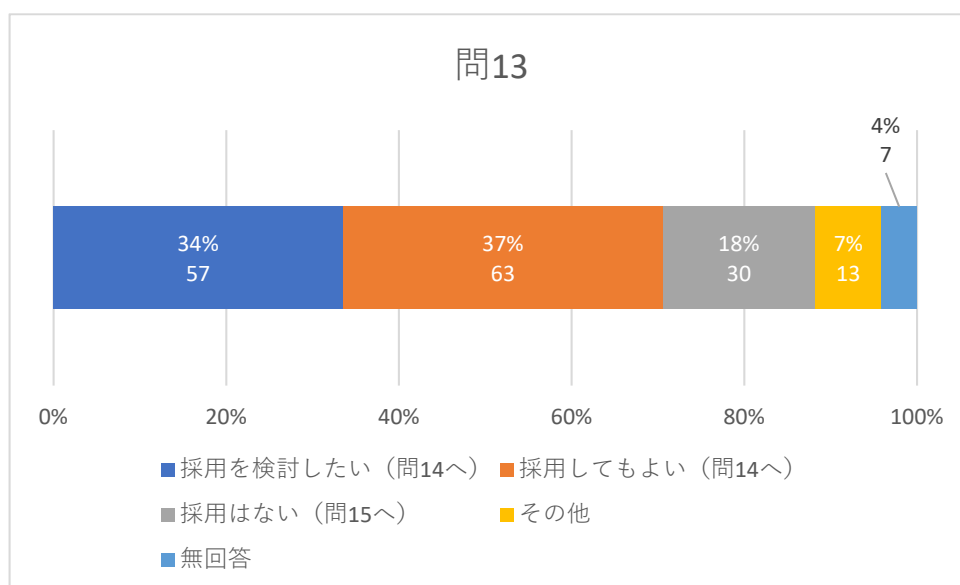




(2) 大学院社会文化創造研究科（修士課程）修了者の採用

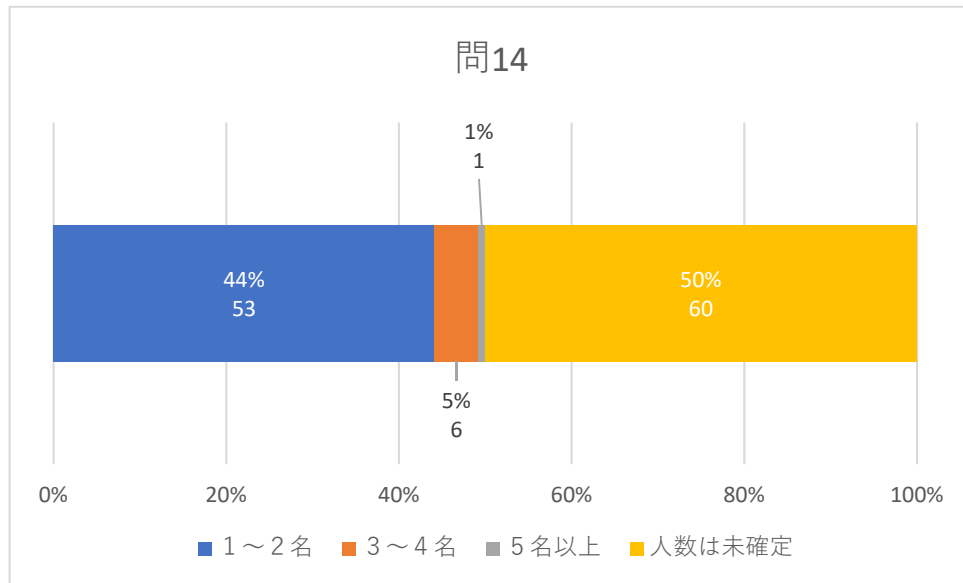
問 13 山形大学が改組を計画している大学院社会文化創造研究科（修士課程）を修了した大学院生を採用したいと考えますか。

回答項目	回答数
採用を検討したい	57
採用してもよい	63
採用はない	30
その他	13
無回答	7



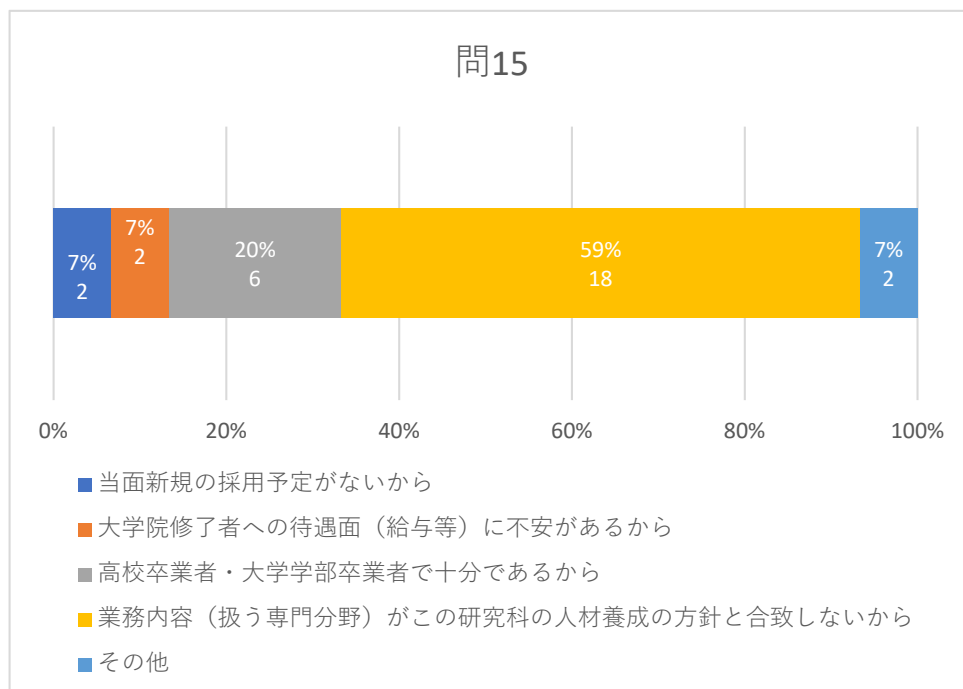
問 14 問 13 で「採用を検討したい」、「採用してもよい」をした場合、毎年、何名程度の採用を考えますか。

回答項目	回答数
1～2名	53
3～4名	6
5名以上	1
人数は未確定	60



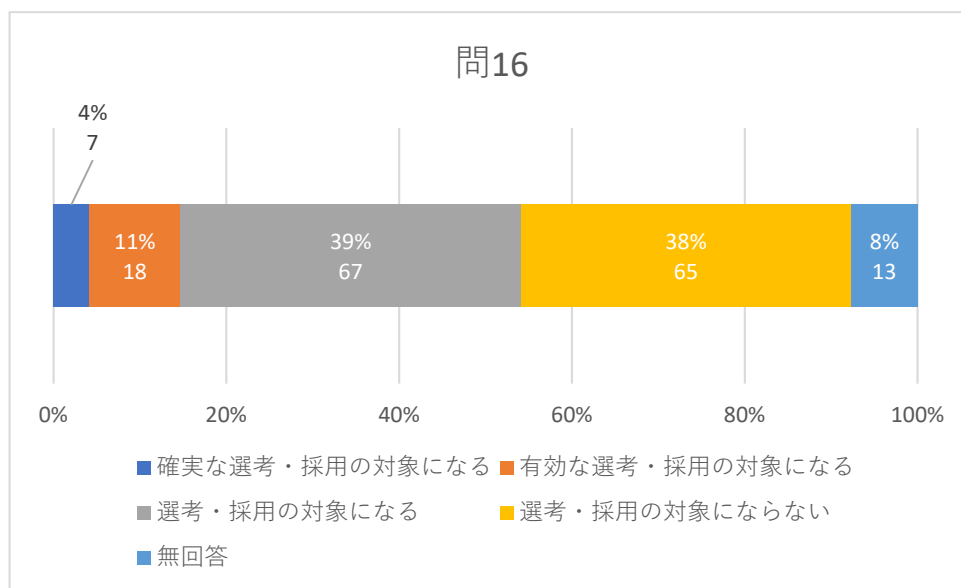
問15 問13で「採用はない」を選択した場合、その理由について、該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

回答項目	回答数
当面新規の採用予定がないから	2
大学院修了者への待遇面（給与等）に不安があるから	2
高校卒業者・大学学部卒業者で十分であるから	6
業務内容（扱う専門分野）がこの研究科の人材養成の方針と合致しないから	18
その他	2



問 16 山形大学が改組を計画している大学院社会文化創造研究科（修士課程）で学んだ「留学生」は、選考・採用の対象になりますか。

回答項目	回答数
確実な対象になる	7
有効な対象になる	18
対象になる	67
対象にならない	65
無回答	13



(3) 意見・要望等

問 23 最後に、山形大学が令和3年度（2021年度）に予定している大学院研究科（修士課程）の再編・改組について、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。その他、山形大学の教育内容・活動について、ご意見等があれば、あわせてご記入ください。

自由回答（本研究科に関する回答を抜粋）

- ・当社は医療機器の卸売、小売を行っている商社であり、お手伝いできることは少ないかもしれませんが、公開講座や職業体験のご要望があれば、積極的に検討させていただきます。
- ・OBとしてひいき目に見てしまうが、最近の山大学生は真面目でよく勉強していると思う。他大学生とみても、グイグイ前には行かないが、しっかり考え行動出来るところは、社会人として受け入れる側は、もっと採用したいと思ってしまう。ぜひ県内・東北に残って活躍してもらいたい。
- ・専門分野の強化だけではなく、関連性のある知識・技術を強化してもらいたい。
- ・各研究科の専門スキル以上に、教養・語学・異文化理解・数理理解などの基礎能力の深化に期待したい。
- ・大学院卒学生様の採用に積極的に取り組みさせて頂いております。東北の中でも山形の支店がありますので、引き続き情報交換させて頂ければと思います。
- ・少子化・学生数を考慮し、魅力ある大学を目指していることが伺えると思います。東北の大学として、頑張っていたきたいと思っています。
- ・海外での研究発表などグローバルな視点で活動できる人材教育を高く評価します。
- ・地域で活躍する学生が増えることを期待しています。（すでにあるかもしれませんが）一年次から地域企業を知る・関わるカリキュラムがあれば、当社も積極的に参加したいと考えております。工場見学・インターン・共同研究などご協力致しますので、今後ともよろしくお願い致します。
- ・有能な人材を世に送り出すべく常に模索しておられるのを感じます。お力になれることがございましたらどうぞよろしくお願い致します。
- ・公務員採用試験の応募が少なくなっている。市町村と連携した授業など、地域とのつながりを強化できないか
- ・このようなアンケートも実施されており多様な人材の育成に向けた取り組みが素晴らしいと感じます。企業としてもより一層体制づくりに努めていかなければならないと感じました。
- ・当社としましては高度な専門知識も必要ですが、課題解決力や人として総合力を学生時代に高めていただくようなカリキュラムを要望する次第です
- ・弊社は採用において、学部、専攻等幅広く受け入れております。貴大学の学生が多く選考に参加していただけることを願っております。

以上